

## 雪の上で、バウンドバウンド… 大人気でした。スノーラフティング

3月27日に今シーズンを終了するひるがの高原スキー場。今年も特にファミリーやビギナーの皆さんから、高い人気を得ています。中でも、今年新登場した「スノーラフティング」が好評で、シーズン中の土日・祝日は、10～14時からいまでたい「1時間待ち」になってしまったほどだそうです。



そんなスノーラフティングに、ひるがののちっちゃな女子たちがチャレンジしてきました。ヘルメットをかぶって、おおきなゴムボートに乗り込むと、スノーモービルが広場に移動。ブイーン。スピードがあがってモービルが円を描いて走ると、遠心力でボートがぐるー



んと回ります。「キャーッ」。わずかな雪のギャップで、ボートがぼよんぼよんと跳ねて「キャーッ」。雪の粒が水しぶきのように飛んできて、真っ赤なほっぺにあたるとまた「キャーッ」。

考えてる間もなく、楽しさが波のように繰り返してきて、あっという間に終了。「ああ、楽しかった。」

1回の乗車は一人500円(約15分)です。今回はちびっこたちでしたが、乗る人の年齢などに合わせて、スピードの調節をしてくださるそうなので、スリルを味わいたい人はスピードアップのリクエストしては?

来シーズンまでおあずけになってしまいますが、またひとつ、冬のお楽しみができましたね。



またやりたーい♡

おもしろかったー



## スノーシューで行ったよ!



1月29日。公民館主催のスノーシューツアーが行われました。当日の天気は雪。大雪、とまではいかないまでも、どんどん降ってくる雪の中での出発となりました。でも地ガキ(地元のガキんちよ君たち)にはそんなのまったくカンケイない。

寒さも遊び道具の一部みたいなもんですからね。去年はひるがの湿原植物園の中で、雪上運動会といった雰囲気でしたが、今年はひるがの高原スキー場を出発して、明智荘川ゴルフ場へ抜けるルートを歩きました。スキー場の頂上まではリフトを利用し、その後は平地や下りの多い優しいコースということで、小学生も無理なく楽しめたようです。

荘川のゴルフ場に到着してからは、豪快なソリ遊びなど、文字通り雪まみれになって、子犬のように跳ね回って真っ白な世界をたっぷり楽しんできました。



### ところで、スノーシューって何?

靴では埋まってしまう雪の中でも歩けるかんじきのようなもの。スパイク付きなので登りも下りも滑りにくくてきています。最近では、スキーやスノーボードとは一味違う雪山の楽しみとして、徐々に注目を浴び始めています。年齢や性別を問わず、誰でも雪の上を楽しめて、お天気のよい日など、ピクニック気分でお出掛けのもおススメですよ。ひるがの高原でもレンタルやガイドを行っている会社があります。問い合わせしてみてください。今回は昨年に引き続き、ODSSさんにお世話になりました。

## 春からの



今シーズンからは4人乗りリフトで、一気に頂上展望台まで!!

例年、4月20日頃から咲き始めるミズバショウ。ひるがのの春の始まりを告げる、可憐な白い花が終わると、芽吹きだす山の味覚の山菜たち。春からのひるがのは新鮮なワクワクがいっぱいです。冬はスキー場という広大な敷地をハイキング気分でお楽しみながら、山頂の爽快な景色を満喫してください。7月中旬には緑のコキアと花畑が見ごろになり、山頂までリフト(有料)で登れるようになります。お楽しみに!!



コキアパーク 営業期間/ 7月9日(土)～11月6日(日) 開園期間/ 朝8時30分～夕方4時30分

※パーク内には、ドックランやグランドゴルフコースあり。ノルディックウォーキングのポールレンタルも始めます。



高橋 美月ちゃん(19)

# We love ひるがの

大好きなひるがののこと、聞かせてください ⑤

「目を回す感じがいいよ」  
自然への距離感と濃密な関わりが目的者達にとって

かわいい声がチャームポイントの美月ちゃん(19)ちゃんに付けて呼ばせていただきます。愛知県の大学に通うため、去年の春から郡上を離れ、お兄さんと暮らしています。

現在、彼氏が暮らしている場所は、名古屋近郊でもまだまだ緑豊かな場所ですが、それでもひるがのの自然とは全然違うのだそうです。

何が違う?  
「うん、自然との距離感と濃密かな。」  
「うまいこと言うねえ。」

ふだん、豊かな自然のまっただ中にいる私たちが、自然がどれほど身近にあって、どれほど濃密に推しているかを忘れていきます。美月ちゃんのように少し離れた場所で生活すると、それをあらためて感じるのかもしれない。



「ひるがのじゃなかったら、こんなにスキーやってないし。」そう、美月ちゃんは、小学校3年生から高校1年生まで、競技スキーをやっていました。現在、ひるがのにはひるがのビアリーシングコミュニティというチームがありますが、彼女は第一期生の一人だったのです。今はレースを離れていますが冬休みになると、ひるがののスキースクールでインストラクターのアルバイトをしています。そんなわけで、山が白くなる頃には山が恋しくなる様子。あ、でも、クーラーの要らない夏の間も同じくらい恋しいみたい。

ひるがのに引越してきた時、美月ちゃんはまだ6歳。保育園の年長さんでした。教師のお父さん(高橋先生の気ままな?)引越しがきっかけで、やってきました。その後、お父さんはもちろん、家族がひるがのを気に入って、家を建てて定住することに。学校の先生は、一般的には3年で次の学校へ転動します。当時を振り返って、美月ちゃんのお母さんも言います。「来た時は、3年で帰ると思ってた。ひるがのじゃなかったら、こんな風に住んでなかったと思う。」その言葉を聞いて美月ちゃんも「ひるがのよかったと思う。」

普段のほんわかした口調と比べて、なんか急に力強い声。

## 懐かしフォトグラフ

いつ?どこ?だれ? 小さすぎて分からない? 分かる人には、分かるはず!

【ヒント】  
写真左/昭和三十?年 一年生  
写真右/西暦198?年 卒業生  
場所はもちろん、われら～が大日小学校♪



※昔のひるがのを懐かしんでいたごとう、勝手掲載させていただきました。ごめんなさい。

虫めがね  
ご用意ください

